

## 幼児と触れ合おう

— I C T を活用したパペット製作と人形劇 —

埼玉県越谷市立大袋中学校 教諭 倉持 登紀子

10781816@edu.city.koshibaya.saitama.jp

キーワード：iPad、デジタルカメラ、デジタルビデオ、大型液晶テレビ、PC

### 1. はじめに

本事例は中学校技術・家庭「家庭分野」の内容構成「A 家族・家庭と子どもの成長」において、幼児期の遊びの意義を理解し、おもちゃの製作や幼稚園訪問を通して幼児への理解を深めることで、よりよく関わろうとする生徒の育成を図る題材である。

おもちゃ製作では全員でパペットを製作した。幼稚園訪問では製作したパペットとPCで作った背景を用いて人形劇を行い、その後一緒に遊び、幼児との触れ合いを通して幼児への理解を深めた。人形劇の背景は、文教大学の今田ゼミとコラボレートしてゼミの学生たちが作成し、大型テレビに映し出しながら本校生徒が人形劇を実演した。アナログの人形劇とデジタルの背景が融合した発表である。



写真1 製作したパペット人形  
(教材 優良教材株式会社)

### 2. パペット製作

#### (1) 課題を解決する力をつける

パペット作りで必要な基礎・基本の技術をわかりやすく生徒に理解させるため iPad、デジタルビデオカメラ等を活用した。ICT環境を整える以前は、黒板に段階見本を掲示し、説明をプリント（テキスト）で示し、部分見本をグループに配り参考にさせた。はじめての技能指導では教師が実演し、今までではわからなくなると教師を呼ぶ場面が多く見られた。しかし、iPad 10台を用意し、その中にデジタルカメラやデジタルビデオで撮影した部分見本や作り方の動画や静止画を入れておくことで、わからないところを自分で見て確認することができ、個々の課題に応じることができるようになった。また、iPadをグループで1台活用することで互いに学び合い、教え合う場面が活発にみられ、学習の高まりがあった。



写真2 教え合う生徒の姿

製作においては、次の中から生徒各自で方法を選択でき、自ら考えて自分に合った方法で作業を進めることができるようとした。

- ・テキストを見て製作する方法
- ・直接教師にやり方を聞き製作をする方法
- ・部分見本や段階見本を見ながら製作する方法
- ・iPadを使って画面を見ながら製作する方法



写真3 テキストを見る



写真4 教師に教わる



写真5 見本を見る



写真6 iPadを見る

#### (2) ICT環境を整える

iPad 10台を準備し、iPadにはパペットの製作のための部分見本や作り方をビデオに撮影して入れ、各自が自由に見られるよう、グループに1台ずつ渡した。ビデオは、パペットの種類とそれぞれの部分の作り方に分けて撮影し、撮影時間は長くとも50秒程度にして、作業時間を多くとれるよう、説明に時間をかけないようとした。

iPadに入れた動画内容

- ・ネコの耳
- ・ウサギの耳
- ・クマの耳
- ・イヌの耳
- ・ネズミの耳
- ・手の縫い方
- ・ぐし縫いの仕方
- ・口をつける
- ・ダーツを縫う
- ・耳を顔につける
- ・顔とボディ後ろを縫い合わせる
- ・顔の作り 等



写真7 iPadの画面

### (3) 学びの高まり

パペット製作では製作前に計画を立て完成に向けて実行していく。自己計画票（評価票）を活用することで、自分にあった学び方で作業を進め、毎時間ごとに自己評価を行い、自分の課題を確認し、計画を修正して進めた。生徒ごとにいく通りもの学び方があり、生徒1人1人が自分にあった学び方を選ぶことで、全員が集中して行う授業になった。

ICTを活用する授業は難しいと思われがちであるが、学ぶ内容は今までとは変わらず、学び方がデジタルになり、生徒のわかりやすい方法に変わっただけである。

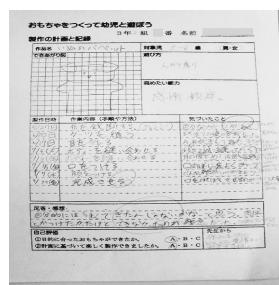


写真8 自己計画票

## 3. 人形劇

### (1) デジタル背景

人形劇では、物語を考え、演じる場面に相応しい背景をPCと大型液晶テレビを用いて表現した。PCでの制作は、文教大学の今田ゼミとコラボレートして、ゼミの学生たちが生徒と打ち合わせをして作成、大型テレビに映し出しながら本校生徒が実演した。当日、背景を大型テレビで映し出すことによって、園児が劇に集中し、生徒のオリジナルの物語でも理解できるところがねらいであった。

### (2) 人形劇完成まで

人形劇の背景は中学生の劇に合わせて場面を変えた。背景はいくつかの場面を作り、動きのある物語にした。物語はみんなの知っているお話でも生徒のオリジナルでも良いとして3分以内の内容を園児の前で演じた。園児参加型の内容（歌、クイズ、一緒に活動等）もあれば、よく知られている昔話や物語を演じる生徒もいる。

写真11 園児参加型の人形劇



写真9 人形劇の背景



写真10 人形劇の様子

工夫した点は文教大学のゼミの学生と一緒に背景を作成する作業を進め、PCでの作成を学生にお願いをして、リハーサルを重ね一緒に作り上げていったところである。

各グループで絵コンテを作成し、学生と打ち合わせを行った。学生たちは絵コンテの数すべての背景を作成するのではなく、同じカテゴリーでいくつか作成し、使うグループにより部分的なアレンジを加えていた。

大学生とのリハーサルで自分たちが考えた絵コンテが形になってくると中学生の演技にも熱が入り、授業では大学生と中学生が熱気を帯びて楽しく話し合っている姿が見られた。



写真12 大学生との打ち合わせの様子

## 4. 学習の成果と今後の展望

従来の学習方法にデジタル機器を使った方法を加えることで、自分がわからないところを探し、見つけ出してわかったことをグループ内で教え合うなど、自らの課題を見つけ解決し、さらに互いに教え合い学び合う場面が見られた。

PCによる背景の作成では、幼児を物語に集中にさせることができ、自分の発想を形にすることが未熟な中学生にとっては、大学生が技術面でPCの手助けをしてくれることで、思い通りの背景を作成することができた。

大学生との事前の打ち合わせでは、自分が考えた背景がすてきに仕上がっていることに感動し、やる気を出した生徒も少なくない。背景に負けないように小道具などを作って人形劇に熱が入った生徒もいる。

中学生の発想と大学生の発想と技術で物語を仕上げていき、幼稚園児がそれを楽しみ、情緒を育むことに関わることができた。また、幼児と触れ合うことで幼児を理解し、自分は何ができるのか、また、周りの人との関わりを理解できる授業になった。

今後はiPadの数を増やし、もっと多くの生徒が活用できるようにして、効果的な指導を活発にしていきたい。また、自己評価票や訪問後の感想記入などもPCを使ってまとめていけると、さらに学習の幅が広がると考えるので技術分野とのT・Tも考えていきたい。



写真13 幼児と触れ合う生徒の様子